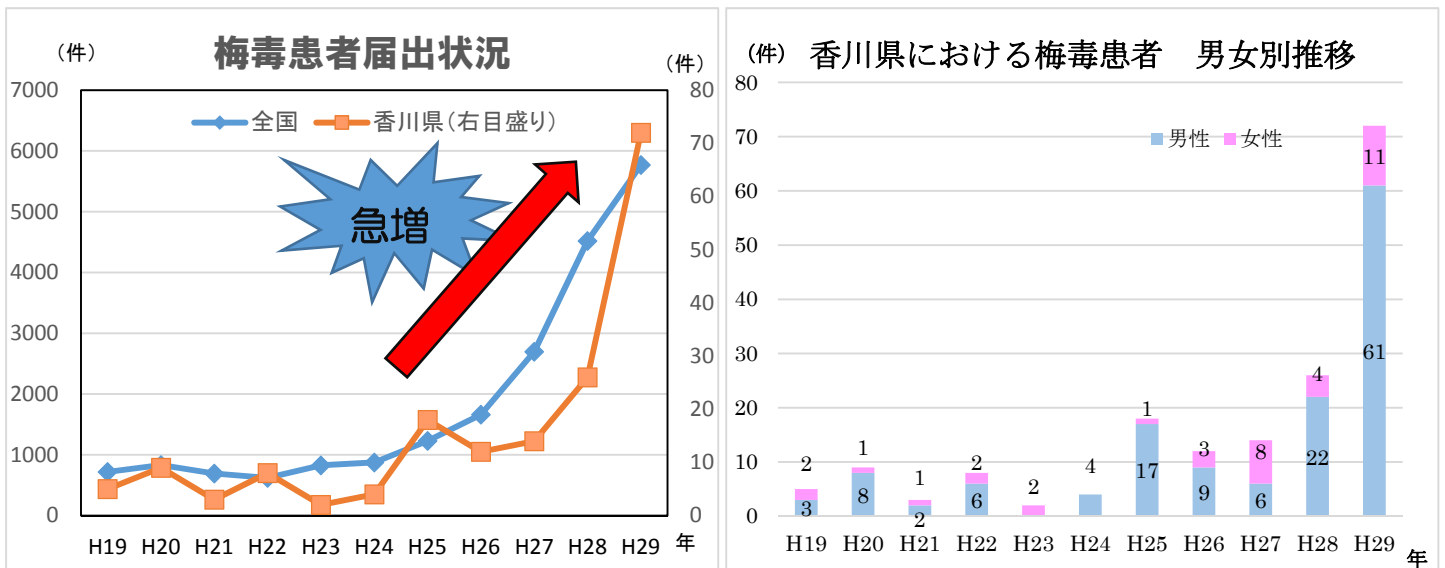


梅毒が急増しています！

全国的に梅毒の報告数が急増しています。

香川県においても、平成29年は72件と前年の3倍の報告数となりました。



梅毒は、性的な接触（他人の粘膜や皮膚と直接接触すること）などによってうつる感染症です。早期の薬物治療で完治が可能ですが、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。

●症状について(4期に分類されます)

1期：感染後約3週間～3か月

感染がおきた部位（主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等）に

3mm～3cm大のしこりが出現します。痛みがないことも多く、治療をしなくても症状は自然に軽快します。

2期：感染後3か月～3年

手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発疹が出ます。また、発熱や倦怠感など全身症状が現れます。

3期：感染後3年～10年

皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍が発生することがあります。

4期：感染後10年以上

心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、場合によっては死亡に至ることもあります。

*また、妊婦が感染すると流産・死産・早産などの原因になるほか、生まれてくる赤ちゃんに先天性の障害を引き起こすことがあります。

体内から病原体がいなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性があります！

●予防のためにできること

- ・不特定多数の人と性行為をしない。
- ・性行為（膣性交、口腔性交（オーラルセックス）、肛門性交（アナルセックス））の時は、必ずコンドームを使用する。
- ・皮膚や粘膜にしこりやただれなどの症状があった場合は、性的な接触を控え、早めに医療機関を受診する。